



水耕ネギ培養液の pH を変えての栽培試験

## 成果情報

- ・「水耕ネギ」根腐れ病防止

## 研究紹介

- ・水稲複合抵抗性品種「ゆめまつり」
- ・全日本花産品種審査会
- ・「イエローベル」研究会

## コラム

- ・農業技術センター一般公開

## 品種紹介

- ・『鈴成砂糖豌豆』

## 成果情報 培養液の pH を下げて水耕ネギ根腐病を防ぐ

水耕栽培ネギに大きな被害をもたらす根腐病は、水生カビの仲間であるピシウム菌が根に感染することで発生します。ピシウム菌は、遊走子と呼ばれる胞子を大量に作り、培養液中を移動するため、根腐病が急速に蔓延します。そこで、ピシウム菌が遊走子を作らないように、培養液の酸性度 (pH) を調整することで根腐病を防ぐ方法を開発しました。

ピシウム菌は、培養液の pH が 4.0 以下で遊走子を作らなくなりますが、pH が 3.5 以下ではネギの成長が抑制されます (図 1)。培養液の pH を 4.0 で管理すると、根腐病の菌密度が低下することで新たな感染が減って、被害の拡大が防止できます (図 2)。

詳細マニュアルは、当センターホームページ (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/>) からダウンロードしてください。



図 1 培養液の pH とネギの成長

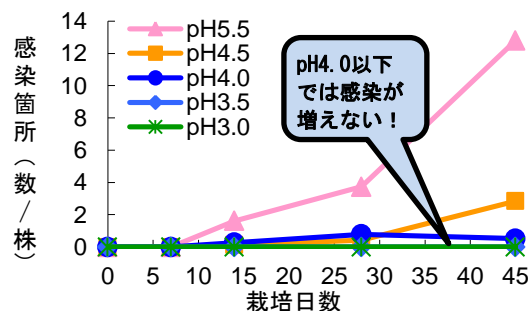


図 2 培養液 pH とピシウム感染箇所数の推移  
(生産環境研究部)

## 研究紹介 水稲複合抵抗性品種「ゆめまつり」のトビイロウンカ密度抑制効果

「ゆめまつり」は、害虫ではセジロウンカとツマグロヨコバイに抵抗性があり、病害ではいもち病に圃場抵抗性があります。

抵抗性の記載はありませんが、坪枯れ（図1）を発生するトビイロウンカ虫数について調査したところ、「ゆめまつり」は「あきろまん」よりも少なく推移しました（図1）。9月下旬に「あきろまん」では坪枯れが発生しましたが、「ゆめまつり」では発生しませんでした。

以上のことから、「ゆめまつり」は、トビイロウンカ密度の抑制も期待できます。

本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「生物多様性を活用した安定的農業生産技術の開発」で実施しています。



図1 トビイロウンカによる坪枯れ被害

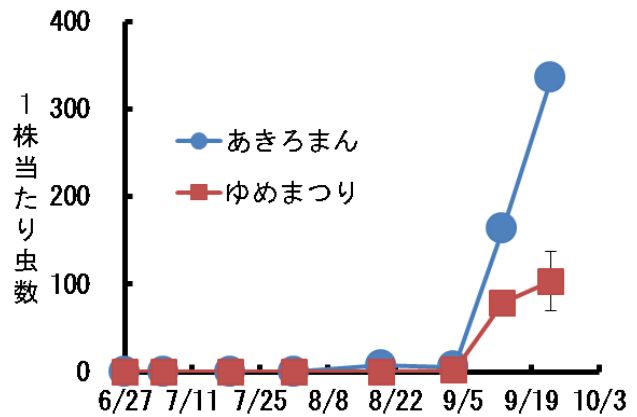


図2 「ゆめまつり」のトビイロウンカ密度 (2013年)

(生産環境研究部・栽培技術研究部)

## 研究紹介 トルコギキョウ 10月開花作型での全日本花卉品種審査会

当センターは、2003年から（一社）日本種苗協会の委託を受けて全日本花卉品種審査会を実施しています。種苗会社が新しく育種したトルコギキョウの品種・系統を同一条件で栽培し、10月開花作型（図1）に適する優良品種を選びます。審査員は、種苗会社代表者、農研機構花き研究所および県花き研究員などが担当し、名前を伏せた状態で草姿、花型や花色などの優秀性を審査していきます。図2は、昨年度の入賞品種です。これらの品種は、広島県の10月開花作型への高い適性があると考えられます。作型や入賞品種などの詳細は、当センターホームページに掲載されている研究成果情報集をご覧ください。



図1 全日本花卉品種審査会の様子 (2013)



図2 入賞品種(2013)

(栽培技術研究部)



## 研究紹介 レモン「イエローベル」研究会の発足

「イエローベル」は、当センターが育成したオリジナルのレモン新品種です(図1)。2014年に広島県果実農業協同組合連合会と利用許諾契約を締結し、栽培面積の拡大を進め、現在は約1haに導入されています。

「イエローベル」の生産現場では、結実や果実品質の安定化に向けた技術確立を望む声が多く寄せられています。それを受けて、当センターでは2015年に新技術セミナーを開催し、栽培指針を作成配布しました(図2)。また、同時に県内約30名の生産者からなる「イエローベル」研究会が発足しました。今後の栽培技術の研鑽や産地化に向けた活動が期待され、当センターも引き続き支援を行っていきます。



図1 「イエローベル」の果実



図2 新技術セミナーの様子

(果樹研究部)

## コラム

### 農業技術センター一般公開

次長兼総務部長

宮武聡一郎

「研究関連のコラム」と仰せつかったわけですが、私自身は事務職で農業関係の研究をしているわけではありません。県庁に入庁してからも会計部門やシステム開発部門でほとんど過ごしてきました。水田に入るのも初めてで、「長靴でいいかな?」と他の職員に聞きましたら、「田靴じゃなきゃ駄目よ。」と言われ、実際に水田の中を歩いてみてそのわけを実感しております。

そんな中、九月五日(土)は、年に一度の農業技術センターの大イベント「一般公開」の日でした。一般公開では、日ごろの研究成果をご紹介するほか、農業へ興味を持っていただくため、子供さんへ人気の「稲刈り体験」、立った稲の間を通る「田んぼの迷路」、「田畑の断面の観察」、めだかやザリガニといった「田んぼの生き物の観察」、「トマトすくい」、「フルーツクイズ」など、楽しんでいただけるよう。職員みんなで準備いたしました。

それまで不安定な天気が続き、

当日のお天気を心配していましたが、日中は雨もなく、そうかといってカンカン照りでもなく、およそ六〇〇人の皆様にご来場いただき、けがもなく終えることができました。ありがとうございました。ただ、一部プログラムの開始時間が間際に変更になり、せっかくご来場いただいた皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。終わりに、こうした今回の反省も踏まえ、今後とも、より一層身近な農業技術センターを目指して参りますので、引き続きよろしくお願ひします。



ジーンバンクで保存している特徴のある品種 (54)

## 鈴成砂糖豌豆

若莢の甘みが強く子実も加工用に利用できる

鈴成砂糖豌豆は平成10年に北海道種苗協同組合から取り寄せた莢豌豆です。赤花で草丈が1.3m前後になる半蔓性ですが、節間長が短く着果数が多いため多収です。最大の特徴は名前の通り若莢の甘味が強く、食味の優れることです。欠点としては子実の肥大速度が速いため、若莢の外観がやや悪くなり易いことです。外観を重んずる商品としては適さないかもしれませんが、味を主体とする家庭菜園での利用や産直市での販売には適していると考えます。この品種の種子には細かい斑点があり、完熟した子実は蜜豆等の加工食品としても利用出来ます。

広島県の中部地帯での適播種期は11月上旬、黒マルチ栽培ではもう1旬遅らせるのが良いでしょう。畦幅1m、株間50cm、1か所の枝数は6～7本が良いでしょう。

一般財団法人 森林整備・農業振興財団 農業ジーンバンク技術嘱託員 船越建明



農業技術センター  
ホームページをご覧ください。

農業技術センターホームページでは、センターニュースのバックナンバーをはじめ、センターに関する最新の情報を提供しています。ご活用ください。

なお、スマートホンにも対応しています。右の2次元バーコード（QRコード<sup>®</sup>）を読み取って、アクセスしてください。いつでもお気軽にご覧になれます。

広島県 農業技術センター

検索

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/>



(問い合わせ先)

〒739-0151 東広島市八本松町原 6869  
総務部 ☎082-429-0521  
技術支援部 ☎082-429-0522  
栽培技術研究部 ☎082-429-3066  
生産環境研究部 ☎082-429-2590

〒739-2402 東広島市安芸津町三津 2835  
果樹研究部 ☎0846-45-5471

農業技術センターNews No.120  
編集発行

広島県立総合技術研究所  
Hiroshima Prefectural Technology Research Institute

農業技術センター  
平成27年10月1日

お問合せ・ご意見は、技術支援部までお寄せください。  
メールでもお待ちしております。

E-mail [ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp)